

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 森戸卓也
編集人 松浦明日香
電話 050(3538)2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2026/5・15

No. 2140

・5・3兵庫憲法集会
・第96回運営委員会・第111回研究所員会議

第97回 兵庫県メーデー 神戸中央大会



4月29日、神戸・メリケンパークで、第97回兵庫県メーデー神戸中央大会が開催され、約5,000人(主催者発表)の参加があった。また、会場内では、「子ども食堂の支援カンパ」への協力や、食品ロスの削減に資する「フードドライブ」のとりくみもおこなわれた。

第97回兵庫県メーデー神戸中央大会のスローガンは、「対話と連帯で築く、平和で笑顔あふれる未来の働き方改革で、安心して暮らせる社会を!」。大倉山公園からメリケンパークに会場を移して開催された今年のメーデーでは、例年よりも子どもの姿が多く感じられた。

実行委員長の那須健(連合兵庫会長)はあいさつで、「働き方改革関連法の規制緩和は、いずれも長時間労働を助長しかねない。強い危機感を覚える。また春闘に際して、3年連続で賃上げを維持していても、実感を伴わない現状と指摘し、賃上げの継続を訴えた。そのためにも、「働く仲間が心をつなぐ」ことが不可欠。ともに頑張ろう」と述べた。

日本におけるメーデーは、1920年(大正9年)に東京で初めて開催されましたが、その背景には、兵庫県・神戸市で展開された労働運動の高まりがありました。1919年(大正8年)、神戸の川崎造船所では、8時間労働制の実現をもとめる労働争議が起こり、日本で初めて本格的に8時間労働制が導入されました。この歴史を伝える記念碑が、現在、神戸ハーバーランド(東川崎町)に「8時間労働発祥の地」として建てられています。この成果は全国の労働者に大きな影響を与え、翌年の第1回メーデー開催へとつながりました。また、神戸市の大倉山公園は、日本における初期メーデー運動の重要な舞台であり、「日本メーデー発祥の地」ともいわれています。神戸は、メーデーと日本の労働運動の歴史を語るうえで欠かせない地です。

ピリョクだけどもリョクじゃない！ 核兵器廃絶と平和な世界を！



4月29日、神戸市共同参画センターあすてつぷKOBEBEで、高校生平和大使を支援する兵庫県実行委員会第7回総会および第28代高校生平和大使・サポーター活動報告会がおこなわれ、支援者100人が参加した。

西村恭介実行委員長(兵高教執行委員長)、来賓のあいさつの後、第28代高校生平和大使・サポーターから一年の活動報告があった。

高校生平和大使活動メンバー4人からは、ジュネーブ派遣、小学校での平和学習、首長との懇談、他府県の平和大使との交流、未来への架け橋などについて報告があった。



被爆体験を話せる人が少なくなっている。忘れさせてはいけない。自分の言葉で伝えていきたい。今も苦しんでいる人、支援を受けたい人、支援を受けるべき人がいる。偏見や差別を乗り越えて生きていく人がいることを忘れないようにしたい。

全国の高校生との交流から多くのことを学んだ。先輩の姿を見て、いつかジュネーブに行つて自分も発信したいと思った。実際にジュネーブに行つて、国同士による対話の大切さを感じた。その体験や学びを兵庫の高校生や学校の人たちに伝えることで平和の種をまくことができた。

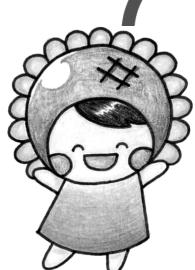
最後に、北野聡子副実行委員長のあいさつにより、賛同団体を増やし、今後高校生をサポートしていくという思いが参加者で確認された。

兵教組に加入し、諸権利を守ろう！ 兵教組が叶える！ 「いい働き方」

兵教組は、これまでの交渉の中で、さまざまな権利を勝ち取ってきました。休暇制度や給与制度など、他の都道府県と比べて有利な制度がたくさんあります。その制度を守り続け、また、新たに勝ち取っていくためにも、組合が必要なんです！

勝ち取った、産休・育休制度

嬉しいことあった？
あ、はい！
おめでとう！
無理せず大切にね！
産休と育休の制度が、こんなにいいんです！
産休の途中から産休に入るし、
産休と育休の制度が、こんなにいいんです！
兵教組はね、
県教委と交渉して、
産休と育休の制度が、
大きく改善してきてますよ！
産んでね！
兵教組があるから、
今の制度があるんですね！
おかげで安心して産んで、
育児も仕事も両立できそうです！



登録して「マンガ」と送信すると、組合に関する四コマ漫画が見られます。

LINE公式アカウント

兵教組



戦争させない、9条壊すな！

5・3兵庫憲法集会

神戸・みなとのもり公園



80年十一戦争と被爆の実相から私たちが平和の作り手に 憲法はあなたの命と未来のサポーター

5月3日、憲法記念日に、「戦争させない、9条壊すな！5・3兵庫憲法集会」が、神戸・みなとのもり公園で開催された。小雨が降る中、約6,000人（主催者発表）、うち兵教組から約230人が参加した。



会場の入り口では、高校生平和大使活動メンバーから「高校生一万人署名」やカンパが参加者に呼びかけられ、多くの人が立ち止まり署名やカンパへの協力をおこなった。

集会では、川口真由美さん、カオリンズの歌と音楽。羽柴修弁護士が主催者あいさつ、近藤暢朗弁護士（兵庫県弁護士会憲法問題委員会）が来賓あいさつに立った。

憲法アピールでは、「世界では戦乱が絶えない。膨大な軍事費をかけた周辺国に恐怖を与えるより、憲法9条を守り、戦争しない国だ」という安心を供与することこそ、戦争を避ける最も有効な手立て。「未来の子どもたちに平和をつなぎ、歯を食いしばっても戦争のない世界を届けよう」と参加者が声をあわせ、確認した。



運営委員会

2026年度6つのタスク

- ① 研究体制・研究内容のさらなる充実をはかりながら、地域組合教育研究委員会・研究所、教育文化総合研究所（教育総研）等と連携して、教育改革の実現をめざした教育研究活動を進める。
- ② 研究所の組織と活動を強化し、研究資料等の発行、研究テーマに沿った教育講座等の開催をすすめる。また、地域組合教育研究委員会・研究所と連携した研究活動をすすめる。
- ③ 学力問題を学力調査の平均値や順位によって一元的にとらえるのではなく、子どもにとって必要な学力をばぐむための実践・研究をすすめる。また、「わかる授業・たのしい学校」の実現をめざした新しい教育課程の編成と創造的な教育活動に組織的にとらむ。

第76次教育研究活動の推進

① 提出リポートについては、作成の手引きをもとに『兵庫の教育第75集（第76次教育活動のつぎ）』をふまえ、子どもの実態を深く見つけた、具体的な実践における子どもの変容・育ちが見えるよう作成する。

② 組合員の実践リポートは、昨年度1年間の実践や数年間にわたるとりくみの報告も呼びかける。また、すぐれた実践を発掘し、地域組合全体の教育力量を高める。

③ 過去10年間、一度もリポートを提出していない分科会や「教科・教科外の偏り」などを確認し、その原因をあきらかにして教研活動をすすめる。

④ 教育研究会を、子ども・保護者・地域の方々・働く仲間が参加しやすいよう「教育フェスティバル」として開催する。

⑤ 保護者・地域の方々のリポート参加を呼びかけ、「地域の子育て」、「地域の教育改革」等について分科会で

第76次兵庫教育研究集会 (ひょうご教育フェスティバル)

第76次県教研は、メイン・テーマを「いきる つながる みちひらく」自立と連帯・共生の学びと教育」として11月14日（土）・15日（日）に開催する。

14日（土）の分科会は対面にておこない、各分科会の人数制限はおこなわない。分科会討議は9時30分～16時30分までとする。

兵庫教育文化研究所 第96回運営委員会・第111回研究所員会議

5月8日、兵庫教育文化研究所第96回運営委員会・第111回研究所員会議がハイブリッド形式でおこなわれ、約170人が参加した。

谷哲一書記長のあいさつ（要旨掲載）の後、秋岡広之事務局長から、経過報告と2026年度のとりくみ、第76次教育研究活動の推進、第53回教育課程編成講座の運営などについて提起があった。

研究所員会議では、24の部会にわかれ、それぞれの研究課題や年間計画等が話し合われた。

中教審では、次期学習指導要領改訂にむけ、教育課程企画特別部会がまとめた論点整理にもとづき、総則および各教科のワーキンググループによる議論がおこなわれている。今年度中に中教審が答申を出し、27年度に学習指導要領が告示され、30年度から小学校での全面実施となる予定だ。

論点整理においては、私たちがもめている総授業時数の削減にはふれられておらず、「調整授業時数制度」により、各教科の授業時数を一定程度増減可能とすることが議論されている。この制度では、「裁量的な時間」として、該当教

「兵教組第6次提言」や日教組「インクルーシブのつぼみ」および「外国につながる子どもたち」インクルーシブのつぼみパート2」等を生かした実践を研究していただき、ゆたかな学びと育ちの実現にむけ、「使命」と「誇り」を持つ兵庫の教職員として、学校現場からの教育改革にとりくんでいただきたい。そのことが、私たちの教育研究活動のメインテーマ「いきる つながる みちひらく」の具体化に結びついていくと考える。

運営委員会・研究所員会議において、教研活動の必要性と意義を改めて共有いただき、教職員の協力・協働による職場を基礎にした教育研究活動の充実に向けた、各部会での真摯な議論をお願いする。

【お詫びと訂正】

教育ひょうご2026/5・1（第2139号）2面 第1回教文部長会・教研推進委員会の記事において、教育課程編成講座の日程に誤りがありました。

（誤）全体会11月29日 → （正）全体会11月28日
（誤）分科会8月7日 → （正）分科会8月5日

訂正してお詫び申し上げます。